

# 東海道新幹線新駅対策特別委員会会議録

令和3年3月12日

寒川町議会



出席委員 天利委員長、山田副委員長  
小泉委員、山上委員、橋本委員、横手委員、岸本委員、黒沢委員  
佐藤（一）議長

欠席委員 なし

説明者 廣田拠点づくり部長、皆川倉見拠点づくり課長、川部主査、小宮主査

案 件

1. 新幹線新駅誘致とツインシティ倉見地区まちづくりの経過等について  
(拠点づくり部倉見拠点づくり課)
2. その他

午前9時00分 開会

【天利委員長】 皆さん、おはようございます。

ただいまより、東海道新幹線新駅対策特別委員会を開催いたします。

まず初めに、案件に入る前に、当特別委員会の正副委員長が現在、内定の段階でございます。改めまして、正式にご承認いただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

【天利委員長】 ありがとうございます。

それでは、改めまして、一言、正副委員長として承認の挨拶をさせていただきます。

このたび、東海道新幹線新駅対策特別委員会の委員長を仰せつかりました天利でございます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

それでは、山田副委員長、よろしくお願ひします。

【山田副委員長】 皆さん、おはようございます。今回、東海道新幹線新駅特別委員会の副委員長を仰せつかりました山田です。委員長を補佐していきます。

また、皆さんのご協力をよろしくお願ひします。

【天利委員長】 それでは、本日の案件につきましては、お手元に配付のとおりです。

案件1及びその他2件でございますが、次第のとおり、順次進めてまいりたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

【天利委員長】 それでは、そのように進めたいと思います。

また、本日は、改選後初めての特別委員会でございますので、休憩の中で担当部署の職員の紹介をお願いしたいと思いますと思いますが、よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

【天利委員長】 暫時休憩をいたします。

---

【天利委員長】 それでは、休憩を解いて会議を再開いたします。

次第に沿って、順次進めてまいりたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

【天利委員長】 それでは、案件1、東海道新幹線新駅誘致とツインシティ倉見地区まちづくりの経過等についての説明を求めます。

廣田拠点づくり部長。

【廣田拠点づくり部長】 改めまして、おはようございます。ただいまより、報告事項1件ということでございまして、拠点づくり部倉見拠点づくり課より、事務経過についてご報告させていただきます。説明に当たりましては、皆川課長より行いますので、よろしく願いいたします。

【天利委員長】 皆川倉見拠点づくり課長。

【皆川倉見拠点づくり課長】 よろしく申し上げます。それでは、昨年12月7日に開催されました特別委員会以降の経過等につきまして、ご報告をさせていただきます。経過については、タブレットの01、新幹線新駅誘致とツインシティ倉見地区まちづくりの経過等についてに基づきご報告をさせていただき、ご報告の中での資料のページ番号については、タブレット資料のページ番号でご案内させていただきますので、よろしく願いいたします。

まずは、12月11日でございます。県期成同盟会幹事会が書面会議で行われております。PDFファイルは、01の資料1の2ページから11ページに資料をおつけしてございます。内容については、本年度の同盟会事業の実施状況並びに来年度の予定についての情報共有でございます。会議時点では、予定と記されていた事業につきましては、私どものほうで現時点の実施状況を朱書きで追記しております。

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、例年実施している県内選出の国会議員及び関係省庁への要望活動を訪問による要望書の手渡しから郵送による実施に変更したほか、人を集めて行うイベント等の普及啓発活動については、1月7日に政府の緊急事態宣言が発出されたことを受け、中断、あるいは中止となっております。これによりまして、実施されなかった会議や事業等の支出に未執行額が生じたことから、今年度の負担額を総額360万円から100万円を減額することとし、県及び会員市町の負担額は、割合に応じて、県が180万円から50万円を減額、会員の10市町は、それぞれ18万円から5万円を減額し、返戻することが提案されました。

あわせて、同盟会の特別会計となりますツインシティ整備調整協議会会計も、コロナ禍により、予定していた寒川町産業まつり等での啓発イベントや、町民センターで予定しておりました講演会等が中止となったことから、県と平塚市、寒川町の3者で均等に負担をしておりますそれぞれの70万円から35万円を減額する提案も行われ、併せて、書面による臨時総会で諮ることといたしました。

これを受けまして、後日、期成同盟会の臨時総会が書面により行われ、PDFファイルは01の12ページからの資料2の議案のとおり、12月24日付で承認されました。

なお、減額分につきましては、いずれも1月中に戻入れ済みとなっております。

記載しております経過については、以上でございます。

続きまして、地元への対応状況でございます。

コロナ禍によりまして、昨年10月から実施しております東海道新幹線新駅誘致地区まちづくり連絡協議会の幹事の皆様との個別等による情報交換については、引き続き実施する予定でしたが、こちらも、

1月7日の緊急事態宣言発出により、実施を見合わせております。また、協議会自体についても、会長とはコンタクトを取りながら、会議開催のタイミングについて相談をさせていただいている状況で、5人で構成いたします役員会だけでも年度内に開催できないか模索をしている状況でございます。いずれにしても、今後の宣言解除の状況を見ながら、地元との対話の再開に向け、調整を図り、機運の醸成に努めてまいります。

また、関係機関協議につきましては、継続して、神奈川県と計画の深度化を図るべく、情報共有に努めているところでございます。一昨年のJR東海との技術相談の結果や、県が現在検討中の倉見大神線の変更内容を受けまして、現在、地元にお示ししている土地利用ゾーニングや道路配置の変更の必要性などを整理しているほか、役場内の県駐在事務所とは、新駅とJR相模線、倉見駅との歩行者動線に係る方向性の検討、話し合いを重ねているところでございます。引き続き、JR東海の技術的助言をいただけるよう、相談材料づくりを進めているところでございます。

また、昨年、町のほうから同盟会に向けて意見を表させていただいた駅負担議論の開始を求める提案については、同盟会にどのようにアプローチをしていくかといった準備の進め方について話し合いを始めたところでございます。コロナ禍での行動に制約がかかり気味な面は否めませんが、行政間の取組は可能な限り進めていくという認識の共有は図られているところでございます。

最後に、情報提供でございます。PDFファイルは01、16ページの参考資料は、県道湘南台大神について、県より情報提供がございました。本路線は、藤沢市湘南台から平塚市大神を起終点として、藤沢市側から高倉遠藤線、遠藤宮原線、宮山線、柳島寒川線、そして、倉見大神線の5つの都市計画道路で構成される路線ですが、現在開かれております令和3年第1回神奈川県議会定例会において、路線認定されるよう、議案が出されているとのことで、これが認定されれば、今後は、一本の県道として整備、管理が行われるとのことでございます。

報告は以上です。よろしく申し上げます。

**【天利委員長】** ただいま、担当課より説明が終わりました。これより質疑に入りたいと思いますが、質疑はありますでしょうか。いかがですか。

黒沢委員。

**【黒沢委員】** 今、課長のほうからの説明で、昨年の7月に町長から出した意見書、町側から意見書を出したということですが、そこには、町長の言葉として、全体の費用をつかむことを目的として、負担割合の話し合いを早急に始めていかなければいけないんじゃないかというような意見書だったかと思いますが、実際、その部分については事務レベルの話し合いが始まったということですが、最終的には、やっぱり、総会等でしっかりとテーブルに乗かって話し合いができていかなければ進まないのかなと思うんですけど、実際には、令和3年度の中で具体的にそういう話が進むような状況なのかどうかというところを肌感として、担当課として、どう捉えているのか、お聞かせいただけますでしょうか。

**【天利委員長】** 皆川倉見拠点づくり課長。

**【皆川倉見拠点づくり課長】** 個人的見解となってしまいますけれども、今までの同盟会での状況から考えますと、委員がおっしゃるとおり、やはり最終的に負担割合を決めるのは首長の判断になります

ので、当然、総会の場合、あるいは首長レベルでの協議の場合で決まることになると思いますが、当初、平成9年に倉見地区が誘致地区に一本化された段階で示されているのは、駅費用が、駅本体が160億円、それから、2ヘクタール相当分の駅前広場を含む駅関連施設費、線増分だとか、いろいろな施設があるんですが、そういった施設費が90億円、合わせて250億円ということで示されて、3地区の中で、当時の神奈川県知事の裁定で一本化されたというところでございます。

ですので、基本ベースとしては、250億円をベースにして検討するところなんですけれども、当然、これは、あくまでも同盟会側、行政側の基準ですので、これが現在の値段にしてどれだけかかるのかは決まっておりませんので、価格としては出ないと思います。ですので、確定的なものではできないかなと。

ただ、シミュレーションとしましては、こういった金額で、どれだけのパーセンテージ、割合で負担できるかという議論はできると思うんですけれども、いかんせん、やはりもう一度、こういった駅関連施設だとか、こういった費用がかかるかというのを整理しないと、なかなかそういった議論はできないと思いますので、去年は書面でしたから、町長が改めて総会の場合に出られたときにそういった話をさせていただいて、そこからスタートしていただければと考えております。

ですので、スタートラインといいますか、議論の開始を始めてくださいという意思表示を皆さんが集まった場でしていただいて、スタートするのが第一だと思っておりますので、具体的な議論は、またちょっと3年度内では厳しいかなと思っております。まずは整理をさせていただくということで、よろしくをお願いします。

【天利委員長】 黒沢委員。

【黒沢委員】 今、課長のほうから、平成9年に示された250億円というのがベースの考え方としてはまだ残っていると。しかしながら、時代の背景だとか、時代が進むによって、当然、下がるということは余り考えられないかと。もっと大きくなっているのかなと思うんですけれども、ここのベースとなるものの整理をまず始めるということだったんですが、この部分の整理というのは、どこが責任を持って行っていくのかということなんだろうと思うんですよ、まずは。それは、県と寒川町でやっていくのか、期成同盟会の事務レベルでの話し合いとしていくのか、その辺はどういう考えで進めていくんでしょうか。

【天利委員長】 皆川倉見拠点づくり課長。

【皆川倉見拠点づくり課長】 当然、寒川町は地元自治体ですので、そういった部分については深く関わっていく必要がございますが、負担議論については、やはり、県と10市町の問題でございまして、また、さらに首長レベルというふうな高度な判断レベルになりますので、当然、これについては県に仕切りをしていただきたいというところをお願いをして、ただ、プロセスにおいては、寒川町も地元として意見を出さなきゃいけないと思っておりますので、それは関わっていききたいというところがございます。

以上です。

【天利委員長】 黒沢委員。

【黒沢委員】 町もしっかり関わっていくということでございました。町長の言葉として、意見書を町として出したわけですから、これを進めていく責任の一端は町にもあるのかなと思いますし、ここのスタートをしっかり切っていくという部分については、やっぱり、事務方の仕事になってくるかなと思

いますので、しっかり、今後、ここの議論が進んでいけるように力を尽くしていただきたいなと思いますので、よろしくお願いいたします。要望で。

【天利委員長】 要望でよろしいですね。

【黒沢委員】 はい。

【天利委員長】 他にございませんでしょうか。

横手委員。

【横手委員】 すみません、ちょっと今、どういうお考えなのかをお聞かせいただきたいんですけども、JR東海が2021年3月期の決算で2,400億円ぐらい赤字になると。多分来年も、なかなかこれが戻ってこないであろうという見込みの中で、恐らく、静岡県でリニアの着工についてもいろいろと問題、もめている話もあります。このまま、すんなり2027年というところに落ちていくのかというのが、すごく、2039年か。というところ。多分2027年の東京-名古屋のリニアも何か難しいんじゃないかなと思われるところもありますし、こういう状況の中で、倉見のまちづくりというものをどういう形にしていこうと思っているのか、そこら辺を今考えていらっしゃるのか。こういった、いわゆるステークホルダー、関係者の売上げとか、こういう状況を見て、寒川町がどう立ち振る舞うべきなのかというところの考えが何かあれば、お聞かせいただけますか。

【天利委員長】 皆川倉見拠点づくり課長。

【皆川倉見拠点づくり課長】 委員ご指摘のとおり、新駅に関しましては、リニア中央新幹線の整備状況が大きく関わるところでございます。リニア中央新幹線については、名古屋までが2027年、大阪までが2045年だったんですが、国からの3兆円の融資をいただいている中で、それを最大8年前倒しということで、2037年を開業目標としているところでございます。

ですので、大阪開業については、まだ、その辺は流動的な部分はあるんですが、現時点では、JR東海の目標時点は変わっておりませんので、2027年は難しいといった報道はございますが、まだ正式な話がございますので、町としては、その年時を頼りに進めていくという状況でございます。

やはり、倉見のまちづくりは、そういった長い目標年時をもって進めていく中で、倉見だけでまちづくりが進められるわけじゃなくて、やはり、リニアの整備状況を見ながらというまちづくりですので、地元の皆さんには申し訳ございませんが、長いスパンで、ものを考えていただくような形でお願いをしているところでございます。

ただ、そうはいいまして、早ければ、2037年のリニアの開業までは、もう20年を切っているという状況ですので、当然、そういった準備段階としては、もうそんなに時間はないところですので、これは着実に進めていきたいというところでございます。まずは、地元の会長も申しておりますとおり、町が示した案について、それがいいのかどうなのかを判断できるような、まずは知識を得られるような説明をしてほしいということでお話をいただいておりますので、そういった勉強会だとか、講演会だとかを含めながら、地元の合意形成を上げていきたいというような取組を進めていくというスタンスは、現在のところ、変わってございません。

以上です。

【天利委員長】 横手委員。

**【横手委員】** 分かりました。実は、一番申し上げたかったのは、要は、この1年で働く人たちの環境もすごく変わってきています。例えばリモートワーク、それと、ワーケーションなるものも、全く聞いていなかった言葉が出てきて、働き方の業態自体がすごく変わってきている中で、例えばリモートワークタウンみたいな形もつくり上げていけるんじゃないかと。

だから、言いたいのは、未来をちゃんと見据えた形で、そういう社会情勢も、もちろん変わってくるのは分かるんですけども、様々な社会情勢に対応できるような形で、少しコンセプトの部分を変えていけるぐらいの柔軟性を持ったほうがいいんじゃないかなと思っています。

特に、もしも倉見に駅ができれば、東京まで、品川まで30分かかるか、かからないか。そうすると、すごく通勤に便利。ただ、もしかしたら、その時代には、もうほとんどの人がリモートワークになっているかもしれない。今のリモートワークの状況を聞くと、僕がいたヤフーの社員に聞いたんですけど、2時間以内のところであれば、どこでもいいらしいです。新橋のオフィスに行くのに2時間以内の場所ならどこでもいいとあって、恵比寿に住んでいた子が新潟に戻ったというような話もあります。それから、寒川町にも、1人、ヤフーの子がいるんですけども、その子も、もうほとんど会社には行かずに、うちで、小谷の方なんですけど、小谷で仕事をやっていますという話を聞きました。

そういうような状況が、もしかしたら、当たり前のことになっていく中で、倉見のまちの在り方がどうあるかというのは、もちろん、基礎的なことをしっかりと皆さんに理解していただきながら、未来はこうなっていくかもしれないということもみんな考えていく必要があると思うんですけども、それについてはどう考えか、お聞かせください。

**【天利委員長】** 皆川倉見拠点づくり課長。

**【皆川倉見拠点づくり課長】** いろいろありがとうございます。ツインシティ整備計画に位置づけをしている中で、環境共生のまちづくりとともに、やはりそういった新たな働き方といいますか、リモートワークもできるんじゃないかという形で、そういった部分を視野に入れながら、県央・湘南都市圏のまちづくりをしていきたいと思いますというメッセージは入っています。

これにつきましては、昨年の9月に議員の一般質問の中で指摘をいただいて、それについて、こちらのほうで答弁させていただいているところでございまして、当然、未来のまちづくり、都市未来拠点として位置づけている倉見におきましては、商業・業務系という中では、シェアオフィスとか、そういった部分を視野に入れたまちづくりも、皆様にもご相談をかけているところでございます。

いろいろな選択肢、ここで状況がかなり変わりました、働き方についても、今までは、倉見から東京まで行くのに30分ぐらいで行けますというところだったんですが、逆に今度は、東京から30分で倉見に來られて、そういった離れたところで仕事をしても、何ら距離を感じないような環境にもなりますといった部分がございますので、そういった部分をまた新たに加えながらといいますか、まだゾーニングはしているところですけども、具体については、これからの議論ですので、そういった部分は、平日頃、エッセンスを入れていながら、皆さんに夢を語っていただいて、具体的なまちづくりを構築していきたいと考えております。

よろしく申し上げます。

**【天利委員長】** 横手委員。

【横手委員】 ある不動産会社のシンクタンクの調査で、本厚木が借りて住みたい街の1位になったと。それから、併せて、買って住みたい街の3位にまで上がってきていると。これは、実は、かなりランクアップしていて、前年、本厚木は、買って住みたい街11位だったのが3位になってきたりしているんですね。それはもちろん、交通の便が東京までいいけれども、やっぱり、今言ったように、離れていても仕事ができる環境ができて、さらに、呼ばれたらすぐに行けると、こういうふうになってきているんだと思います。

朝、ぎゅうぎゅう詰めの電車の中で会社に行く時代は、多分もう終わっているというところもしっかりと見据えて、社会情勢とか、それから、未来がどうなっているのか、そこまでを考えて、今後しっかりと、この事業を取り組んでいただきたいと思いますので、要望としてお伝えしておきます。よろしくお願いいいたします。

【天利委員長】 要望ということで、よろしくお願ひします。

他にございますでしょうか。

橋本委員。

【橋本委員】 ちょっとお聞きしたいことがあります。16ページの3のイの子ども向け広報活動についてなんですけれども、今、コロナ禍ということで、なかなか厳しい環境下ではあると思うんですが、これはちょっと確認なんですけど、出前ということで書いていますけれども、これは学校側でオーダーしたら実施できるという仕組みなんでしょうか。

【天利委員長】 皆川倉見拠点づくり課長。

【皆川倉見拠点づくり課長】 同盟会の子ども向け広報活動についてのご質問だと思うんですけど、これにつきましては、同盟会の事務局のほうから会員市町に向けてオーダーをしていて、会員市町の教育委員会と調整の上、行うものでございまして、学校からあれば、それはできると思うんですけども、現在の段階では、神奈川県の実務局のほうからお願いをして実施させていただいているような事業でございまして。

以上です。

【天利委員長】 橋本委員。

【橋本委員】 ありがとうございます。寒川町での学校での実施状況というのは、どのような状況なんでしょうか。

【天利委員長】 皆川課長。

【皆川倉見拠点づくり課長】 現在のところ、寒川町といいますか、倉見地区の関係する学校のほうでは、実施は行っておりません。今後、加えていただくような形になろうかと思いますが、現在のところは、まだというところでございます。

以上です。

【天利委員長】 橋本委員。

【橋本委員】 これから加えていただけるような発言もいただけたんですけども、啓発活用においてはとても意義のあることだ、そういう企画だと思いますし、できれば寒川町倉見地区だけではなくて、寒川町、県央全体ということで、そういう企画でもありますので、寒川町全体、または、できれば学年

を広げていただいて、そういう啓発活動をしていただきたいという要望でございます。よろしくお願いします。

【天利委員長】 橋本委員、要望でよろしいですか。

【橋本委員】 はい。

【天利委員長】 要望ということです。よろしくお願いします。

他に質疑はございませんでしょうか。

小泉委員。

【小泉委員】 今回の資料の最後、16ページ、県道湘南台大神線についてなのですが、こちらはまだ情報提供ということで、今、県のほうで議案として示されている段階であるということですが、こちらの中身を見ますと、新規整備区間としまして、今、宮原のほうから寒川北インターにつながる部分プラス、いわゆるツインシティ橋と、それから、産業道路の間をつなぐような形になっていますが、ツインシティ橋のほうに関して、これは、本来ですと、ここの部分というのは、ツインシティ橋と併せて駅前広場のほうまで一括して整備されるような話だったのかなというふうに認識しているのですが、県道認定においては、ここの、つまり、産業道路を越えて駅前広場までの部分というのは含まれているのでしょうか。そこはどうなんでしょうか。

【天利委員長】 皆川課長。

【皆川倉見拠点づくり課長】 倉見大神線につきましては、現在、都市計画決定されている区間については、平塚側の国道129号線から、寒川側は、県道相模原茅ヶ崎―柳島寒川線までの区間となっております。

倉見大神線自体は、委員ご指摘のとおり、ツインシティ橋を公共交通部として、駅前広場に向かう道路線形を予定はしておりますが、まだ確定はしておりません。なおかつ、現在、県が変更を検討しておりまして、今までは、一般交通部2車線、公共交通部2車線という形で予定していたものを、一般交通部4車線として全て県道に降ろすという形で、その後の駅前広場に向かう道路については、地上で、平面で交差する形を考えているという情報でございます。

これにつきましては、都市計画道路としてどうするかというのは、まだはっきりしたものは、ちょっと私どものほうには情報をいただいておりませんので、今後どうするかという形で、できれば都市計画道路としてやっていただくのがいいんでしょうけれども、これについては、はっきりした状況じゃございませんので、現在の都市計画道路の区間として一本化したものについては、県道までの区間として取り扱っているという状況でございます。

以上です。

【天利委員長】 よろしいですか。

【小泉委員】 はい。

【天利委員長】 他にございますでしょうか。よろしいですか。

(「はい」の声あり)

【天利委員長】 それでは、これをもって、質疑を終結いたしたいと思います。よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

【天利委員長】 質疑はなしと認めます。ご苦労さまでした。  
暫時休憩といたします。

---

【天利委員長】 休憩を解いて会議を再開いたします。  
続きまして、案件2、その他であります。委員の皆様から何かございますでしょうか。  
(「なし」の声あり)

【天利委員長】 ないようですので、事務局から何かございますか。  
(「ございません」の声あり)

【天利委員長】 ご覧ですね。ということなので、それでは、以上で全ての案件が終了いたしました。これを持ちまして、東海道新幹線新駅対策特別委員会を終了させていただきます。  
副委員長のほうから、ご挨拶をいただきます。

【山田副委員長】 皆さん、非常に活発なご意見、ありがとうございました。  
これを持ちまして、新幹線新駅対策特別委員会を終了します。お疲れさまでした。

午前9時31分 閉会

---

寒川町議会委員会条例第27条の規定により、ここに署名する。

令和3年6月2日

委員長 天利薫